

安全データシート

改訂日：2022年6月10日

1. 製品及び会社情報

製品名
会社名
住所
電話番号

硫酸水素カリウム
米山薬品工業株式会社
大阪市中央区道修町2丁目3番11号
(06) 6231-3555 (大阪・本社)
(03) 3246-2311 (東京) (0268) 22-5910 (上田)
(052) 504-2221 (名古屋) (082) 537-0290 (広島)
CB1876

整理番号

2. 危険有害性の要約

GHS分類

健康に対する有害性
環境に対する有害性

皮膚腐食性・刺激性：区分1
眼に対する重篤な損傷・眼刺激性：区分1
特定標的臓器・全身毒性：区分3（気道刺激性）
（単回暴露）

GHSラベル要素

絵表示又はシンボル



注意喚起語
危険有害性情報

危険
重篤な皮膚の薬傷・眼の損傷
重篤な眼の損傷
呼吸器への刺激のおそれ

注意書き

【安全対策】
粉じん、ヒューム、蒸気、スプレーを吸入しないこと。
取扱い後はよく手を洗うこと。
適切な保護手袋、保護衣、保護眼鏡、保護面を着用すること。
屋外または換気の良い場所でのみ使用すること。

【応急措置】
飲み込んだ場合、口をすすぐこと。無理に吐かせないこと。
皮膚または髪に付着した場合、直ちに、汚染された衣類をすべて脱ぐこと、取り除くこと。皮膚を流水、シャワーで洗うこと。
汚染された衣類を再使用する場合には洗濯すること。
吸入した場合、空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
皮膚に付着した場合、眼に入った場合、飲み込んだ場合、吸入した場合は、直ちに医師に連絡すること。
眼に入った場合、水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
吸入した場合、気分が悪い時は、医師に連絡すること。

【保管】
換気の良い場所で保管すること。容器を密閉しておくこと。
施錠して保管すること。

【廃棄】
内容物、容器を都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。

3. 組成、成分情報

化学物質・混合物の区別
化学名
別名
化学式又は構造式
化学物質を特定できる一般的な番号
成分及び含有量
官報公示整理番号

化学物質
硫酸水素カリウム
酸性硫酸カリウム、重硫酸カリウム
 KHSO_4
CAS RN：7646-93-7
硫酸水素カリウム H_2SO_4 として35～37%
(1)-454（化審法）／1-(3)-89 1-(3)-226（安衛法）

4. 応急措置

吸入した場合
皮膚に付着した場合

直ちに新鮮な空気の所に移し、体を保温し医師の手当てを受ける。
汚れた衣類や靴等を脱ぎ、製品に触れた部分を水で洗い流した後石鹼を用いて十分に洗浄する。
速やかに清浄な水で最低15分間の洗浄を行い、医師の手当てを受ける。

眼に入った場合

飲み込んだ場合

水で口中を洗い、多量の水を飲ませる。意識のない場合は水等を与えてはならない。速やかに医師の手当てを受ける。

5. 火災時の措置

適切な消火剤
使ってはならない消火剤
火災時の措置に関する特有の危険有害性

炭酸ガス、粉末消火剤、泡末消火剤
該当情報なし。
火炎に包まれると高度の刺激且つ腐食性を有する煙霧を放出する。

特有の消火方法	周辺火災の場合、速やかに容器を安全な場所へ移す。移動不可能な場合は散水して冷却する。
消火を行う者の保護	消火作業の際は、適切な空気呼吸器、化学用保護衣を着用する。
6. 漏出時の措置	
人体に対する注意事項、保護具及び	作業の際には適切な保護具を着用し風上から作業して、風下の人を退避させる。
保護具及び緊急時措置	保護手袋、保護眼鏡、保護衣、防塵マスク
環境に対する注意事項	河川等へ排出され環境への影響を起こさないように注意する。
封じ込め及び浄化の方法及び機材	粉塵の立たない方法で出来るだけ掃き集め、空容器に回収し、後は多量の水で洗い流す
二次災害の防止策	該当情報なし。
7. 取扱い及び保管上の注意	
取扱い	
技術的対策	適切な保護具を着用する。
局所排気・全体換気	局所排気装置を設置する。
安全取扱い注意事項	
接触回避	目、皮膚及び衣類に触れないように適切な保護用具を着用する。
保管	
技術的対策	湿気対策を講じる。
適切な保管条件	換気の良い涼しい場所に保管する。密閉。湿気厳禁。
混触危険物質	強アルカリ類
容器包装材料	ポリプロピレン、ポリエチレン
8. 暴露防止及び保護措置	
許容濃度	
管理濃度	未設定
日本産業衛生学会	未設定
ACGIH	未設定
設備対策	該当情報なし。
保護具	
呼吸器の保護具	該当情報なし。
手の保護具	保護手袋を着用する。
目の保護具	保護眼鏡を着用する。
皮膚及び身体の保護具	作業衣を着用する。
衛生対策	取扱後はよく手を洗うこと。
9. 物理的及び化学的性質	
物理状態	結晶性粉末
色	白色
臭い	無臭
融点・凝固点	該当情報なし。
沸点、初留点及び沸騰範囲	該当情報なし。
可燃性	該当情報なし。
爆発下限界及び爆発上限界/可燃限界	該当情報なし。
引火点	該当情報なし。
自然発火温度	該当情報なし。
分解温度	195℃
pH	約1 (20℃, 50g/L)
溶解度	490g/L (20℃, 水) 水に溶けやすい。
n-オクタノール／水分配係数	該当情報なし。
蒸気圧	該当情報なし。
密度及び/又は相対密度	2.24g/cm ³ (20℃)
相対ガス密度	該当情報なし。
10. 安定性及び反応性	
反応性	アルコール、水と反応する。
化学的安定性	吸湿性がある。
	加熱すると分解し、有毒なヒュームを生じる。
	多くの金属を侵して引火性/爆発性気体(水素)を生じる。
	水溶液は中程度の強さの酸である。
危険有害反応可能性	該当情報なし。
避けるべき条件	湿気
混触危険物質	アルコール、水、金属
危険有害な分解生成物	引火性/爆発性気体(水素)、有毒なヒューム
11. 有害性情報	
急性毒性	経口-ラット LD ₅₀ 2340mg/kg
皮膚腐食性・刺激性	皮膚に熱傷を生じるとの記載(ICSC(2005))があり、pHが約1 (20℃, 50 g/L) (GESTIS (Accesss on Sep. 2009))の強酸であり、かつ、EU分類においてC, R34に分類されている(EU-Annex I (Access on Sep. 2009))ことから、区分1とした。

眼に対する重篤な損傷・刺激性	眼に重度の熱傷を生じるとの記載（ICSC（2005））があり、pHが約1（20℃, 50 g/L）（GESTIS（Accesss on Sep. 2009））の強酸であり、かつ、皮膚腐食性物質であることから、区分1とした。 該当情報なし。（分類できない）
呼吸器感作性又は皮膚感作性	該当情報なし。（分類できない）
生殖細胞変異原性	該当情報なし。（分類できない）
発がん性	該当情報なし。（分類できない）
生殖毒性	該当情報なし。（分類できない）
特定標的臓器・全身毒性-単回暴露	吸入による症状として咳および咽喉の痛みが記載され、かつ、EU分類ではR37に分類されている（EU-Annex I（Access on Sep. 2009））ことから、区分3（気道刺激性）とした。 該当情報なし。（分類できない）
特定標的臓器・全身毒性-反復暴露	該当情報なし。（分類できない）
誤えん有害性	該当情報なし。（分類できない）
12. 環境影響情報	
生態毒性	該当情報なし。
残留性・分解性	該当情報なし。
生態蓄積性	該当情報なし。
土壤中の移動性	該当情報なし。
オゾン層に対する有害性	当該物質はモントリオール議定書の附属書に列記されていない。
13. 廃棄上の注意	
化学品、汚染容器及び包装の安全でかつ環境上望ましい廃棄、又はリサイクルに関する情報	産業廃棄物処理認定業者に委託して処理する。
14. 輸送上の注意	
国連番号	2509
品名(国連輸送名)	硫酸水素カリウム
国連分類	クラス8
容器等級	II
海洋汚染物質	該当しない。
輸送又は輸送手段に関する特別の安全	運搬に際しては容器に漏れのないことを確かめ、転倒、落下、損傷がないよう積み込み、荷くずれの防止を確実に行う。
国内規制がある場合の規制情報	
陸上輸送	消防法の規定に従う。
海上輸送	船舶安全法の規定に従う。
航空輸送	航空法の規定に従う。
応急措置指針番号	154
15. 適用法令	
化学物質管理促進法(PRTR法)	指定化学物質に該当しない。
毒物及び劇物取締法	毒物及び劇物に該当しない。
労働安全衛生法	名称等を表示し、又は通知すべき危険物及び有害物〔硫酸水素カリウム〕〔施行令別表9〕(2025年（令和7年4月1日）以降) 危険性又は有害性を調査すべき物〔硫酸水素カリウム〕(2025年（令和7年4月1日）以降) 危険物に該当しない。
消防法	腐食性物質
船舶安全法	腐食性物質
航空法	
16. その他の情報	
引用文献	職場のあんぜんサイトGHSモデルラベルMSDS情報（厚生労働省HP） 16615化学商品（化学工業日報社） 記載内容のうち、含有量、物理／化学的性質等の数値は保証値ではありません。危険・有害性の評価は、現時点で入手できる資料・情報 データ等に基づいて作成しておりますが、すべての資料を網羅した訳ではありませんので取り扱いには十分注意して下さい。